

魚・餅・港町

みたらい通信

町並み保存地区みたらい情報誌

みたらい通信
1999年 6月 No.4
あじさい号

御手洗 重伝建を考える会

「特集」

昭和御手洗・娯楽の殿堂

泣いて、笑って
夢のあとさき。
昭和、乙女座、懐古録。

現在の乙女座。映画館の開業は昭和7～8年頃と思われる。
映画、演劇、演芸の舞台で賑わった乙女座も、テレビの普及
とともに昭和40年代に入りその幕を閉じた。

旧若胡子屋跡

乙女座

七御落遺跡

恵美須神社

娯楽といえば、まず映画。

映画俳優や女優は雲の上のスターだった。

まさに銀幕が光り輝いてた時代。

そんな頃の御手洗の空気をお届けしたい。

鞆田さんの庭からは向こうに
ちよこんと乙女座が見える。



鞆田さんの2階からは数え
きれないほどの映画資料が
出てきた。



ダンボール箱にいっぱい
詰まっている当時の
映画チラシとポスター。



特別割引の日だったのか、大人30円、
子供20円とある。築山さんの記憶では
通常料金は大人100円、アイスクリン30円。

お正月はご祝儀でアルバイト
料も3倍になったそうです。

昨年の夏、重伝建メンバーのもとに、
御手洗の鞆田さんから連絡があった。
「押し入れを整理していたら、昭和
初期の映画のポスターやチラシがた
くさん出てきました。生前、乙女座
を経営していた父が残っていたもの
だと思えます。ご覧になりませんか」
一も二もなく、駆け付けた。そして
驚いた。そこには総天然色と言われ
た頃の、映画の宣伝ポスターやチラ
シがきれいなまま保存されていた。
今から40年50年前の御手洗で、どん
な映画が掛かっていたのか。その時
の料金はいくらだったか。全部わか
るのである。その興奮が一気にふく
らみ、この度、乙女座にかかわった
人々にお話しを伺おうということに
なった。全盛期当時の乙女座を知る
人というのがなかなかいない。ま
してや館内で撮影した写真などもな
かなか出てこない。しかし、案外身
近なところに格好の人物がいた。御手
洗の大工、築山克己さん（63歳）が
乙女座で映写技師助手をしていたと
いう。昭和28〜40年頃まで、乙女座
の映写室へ毎晩のように勤務して
いたそうだ。以下はその頃のことを思
い出しながら、昭和の御手洗の若者
風俗、乙女座のありようを語って
くださった築山さんのお話の一部で
ある。紙面の都合で全部ご紹介でき
ないのは残念である。これを機会に、
読者のみなさんの中で、乙女座の古
い写真や思い出などが蘇ったならば、
ぜひ編集室へご一報ください。



当時、呼び込み、宣伝に使われていたでんでん太鼓。サウンドイッチマンのようにポスターを下げ、ドンドン鳴らしながら、町を歩いたそうだ。

商工会館の前から見る現在の
あいおい通り、右手に乙女座、
奥が旧若胡子屋方面。



「忘れえぬ慕情」監督イヴ・シャンピ、出演は岸恵子、ダニエル・ダリユー、ジャン・マレー、野添ひとみ、山村聡、他。フランス人造船技師と両親を失いながらも兄弟の面倒を見、呉服店をきりまわす娘の恋物語。日・仏合作映画。実生活でも、この映画がきっかけで、シャンピと岸恵子は結ばれた。



プレスシート。

映画は涙と笑いに満ちていた。
映画に明日への活力をもらっていた。

何事も質素だけど人がおおらかだった時代。



御手洗に生まれ育った築山克己さん(63歳)。乙女座では映写技師助手だけではなく、小学校の時にはシンドラット役で舞台にも立ったとか。



築山さんのお宅で、おいしい料理をいただきながら楽しい「乙女座談義」に花が咲いた。大正年間の地図が現れ、話は一層盛り上がりつつあった。

私は昭和10年生まれて、稼業は大工です。その頃、昼は大工して夜は映写技師助手をしました。今でいうアルバイトみたいな。17才頃(昭和27年)に始めて、27才で結婚して30才過ぎ(昭和40年頃)まで。夏は7時頃から始まって2本立て、3本立ての時は11過ぎてましたね。当時フィルムは短いので10巻、長くて15巻。たいぎくなったらよくフィルムをとばしよったです。(笑)アルバイト料は一晩で百円くらいだったですね。私が行っていた間で、一番よくお客が入ったのは「君の名は」だったと思います。映写技師の人はよそから来てる人もいたし、島の人もいました。何人かいました。私の知り合いが助手をしていて、その人がやめることになって代わりにやらんかと声をかけられ、ならやってみようかと。結局、なぜか私が一番長くお世話になりました。

昭和37年頃に、乙女座の天井を親父と2人で貼り替えた。三晩寝ずに替えました。あの頃はよくお客も入っていたから、興業を休みたくないんです。四日目の晩には、もう映画やってみました。1階の入り口に丸い切符売り場があって、木造でしたが、当時からかなり近代的な建物で、今もあのままの姿が残っていたら、すごい文化財産になったと思うんです。それく

らい、素晴らしい建築物だったですよ。切符売り場の女の人を、私ら「乙女おばさん」ゆうて呼んでました。本名はお富みさんなんですけど。その人、口は悪いんじゃないけどものすごく人情味がある人で、なぜか私を小さい時からかわいがってくれて、子供の頃は内緒で入れてくれたこともありました。学校の先生でも「親には内緒で」言うて、映画に連れて行ってくれたりしました。

助手になってからの思い出といったら：あんまりお客がいっぱいに入っているから、私ら食事にも降りられないのです。だから買利物籠に紐をつけて窓から下ろして、籠に弁当を差し入れてもらってました。トイレなんかもできないから、瓶ですよ。技師さんが上映中に内緒で女郎を買に行ったりね。ある女郎が一人の技師さんに惚れたことがあって、時々映写室に入ってきて来るんですよ。そして私は気を利かせて部屋を出たり…。乙女座はもともと芝居をするように造られてました。花道があって、売店もあって。席はなだらかな傾斜がついていて、板敷きでした。二階があり、二百人かそれ以上入ったかも。学校の学芸会も青年団の演芸会も、乙女座でやりました。水芸とかそういう興業物も来てました。まあ、面白い時代でしたよね。

ゆたかまち句集

4

梅雨 茫々七脚 落ちし館跡

冨へ返る小路の中を広く見せ

蛸壺の底まで干さる二月かな

梅匂う井戸は昔も今の代も

魂の裂帛の気や夜の梅

圭吾

光重

勝彦

勲

清水



冨へ返る穴太積みとふ石の肌

燈台は白惜しみなく石尊生ふ

春浅し大釜ふせる庄屋跡

おいらんの春追ひやりし連子窓

吉聰

邦彦

美代子

恵美子

■俳句・和歌大募集!

みなさまからの俳句・和歌を常時募集しています。
豊町に限らずテーマは自由。
たくさんの方の投稿お待ちしております。

■宛先

〒734-0302 広島県豊田郡豊町御手洗

「重伝建を考える会」今崎仙也
「みたらい句集」係

一峰寺山より昨秋完成した安芸灘オレンジラインを望む。
大崎下島・岡村島を結ぶ「平橋」「中の瀬戸大橋」「岡村大橋」。
この3本の橋が連なる広域農道を安芸灘オレンジラインと呼びます。

伊藤静恵 (旧姓正岡)

昭和3年に御手洗小学校に入学し、昭和9年に卒業後は大阪の親戚のもとで学校生活を送る。以来、島に帰ることなく、夫の転勤で中国各地に在住経験を持つ。

島外の出身者に大好評、
豊町の絵葉書。
町内の名所旧跡、
風物詩の写真30枚で
構成、700円。



私の中の御手洗 ④

豊町の絵葉書



御手洗の重伝建を考える会の世話役の方が、思いがけなく豊町の立派な絵葉書を送って下さった。永い間の御手洗戀しの心が神に通じたに違いない。

昭和十年頃か、村仁の本屋に白黒の絵葉書が売ってあって、先ず沖から見た東光寺の楠の木、観音崎、大島小島、手前左の方にオチヨロ舟が舳(もや)っっている波止。そしてながめの磯じるしの五枚綴りであったように記憶している。私の大好きな宝物で大切にしていたのに、永い年月の間に見失って、今でも村仁へ行ったら買えるだろうかと、あきらめきれずにいたところでした。

懐かしくて嬉しくて、嬉しくて懐かしくて、演歌の一節みたいだけれど、夕方まで練り返し練り返し眺め、どの一枚にも思い出が溢れて、頭の中はお祭りの太鼓が鳴りっぱなしでした。先ず満舟寺の高い石垣。登校の朝、夏の早い日射しがかーっと照りつけると、それは大きな青大将が、幾匹も赤い舌をちよろちよろさせながら、隣の穴に移動していく姿に、今にもどさーっと頭の上に落ちてきそうで、大

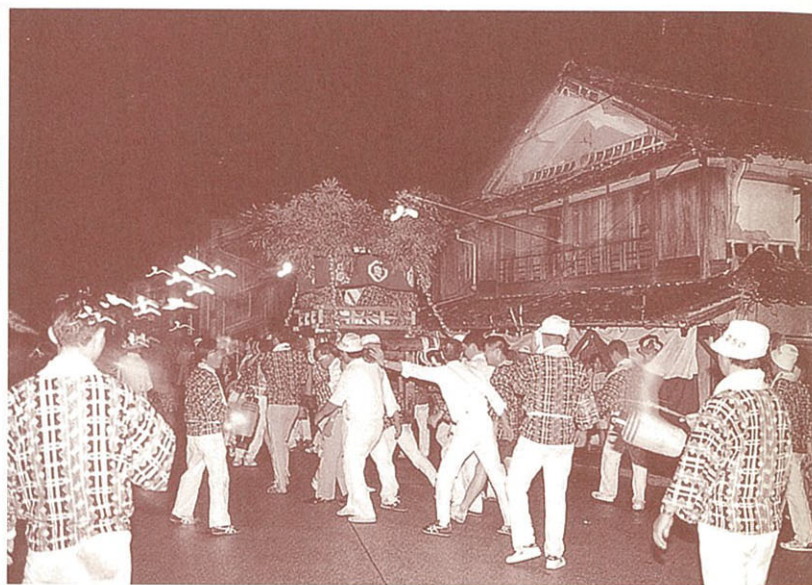
急ぎで駆け抜けたものでした。今でもあの沢山の蛇は生きているだろうか。

常磐通りの町並み。この通りが常磐町通りなんて、今の今まで知らなかったけれど、ちよろっと写っている左はしは大背戸の、のぼるさん方で小間物屋さん。北豊の門があつて、その横はたしか「まつだい」という家で、その隣が北仁。壁の落ち具合も昔のまんまで小さな路地からひよいと一瞬戦死した清人あにやんの姿を見たような気がしました。北豊の小母さんは子供心にとてもやさしい人だったと記憶しています。私の母はお産の後、体の回復がはかばかしくなくて、弟の時弘は人口栄養でした。鶯の絵の描いてある練乳ミルクを北豊へ買いに行くのは、小学校へ上がる前の私の役目でした。唐草模様の風呂敷にミルクの缶をピラミッドの様に積んで、その山が崩れないように北豊のおばさんははていねいにきゅくと結んで持たせてくれました。その時弘も今年八月七十才の生涯を終えて旅立ちました。本当にあの世というものがあんならば、今頃は三十才で遣った若い母さんの懐に、こ

御手洗名物の櫓祭り。
昼は子供達による元気いっぱいの御輿、
夜は大人達の勇壮な担ぎ回しに御手洗人の血が騒ぐ。



常磐通りの町並みは、江戸時代からの歴史を伝える。
その住宅、神社は町の貴重な財産。



あの青大将の子孫は今も健在?!
満舟寺の石垣。どっしりとした
造りは今も昔も変わりなく。



っぱりと抱かれています。
なんといってもハイライトは夏のお祭りです。夜八時頃になると、森屋廻漕店の前あたり、太鼓の音、藝者衆総出の三味の囃子。ふるえ若人よ。御手洗育ちよ。ヨイサヨイサ……。
もどした かやした どうじゃいな。バーンと突然櫓が投げられて横倒し。それでも太鼓をたたく手を休めない若い衆。娘心になんと凛々しくみえたでしょう。夜も白む頃、一番町の木原の製材所のあたりから、さーっと大潮が行った様に、大長むけて祭りは走っていんでしまいます。又来年、その時の淋しい気持ちは今でも忘れられません。私が最後にお祭りを見たのは昭和十五年頃だったと思います。妹の秋子の手配のおかげで、絵葉書が手元に届いて、きつとそのうち御手洗の土をふみたいものと、心がはやっています。本当にありがとうございます。

平成十年十月五日



島外会員が百人突破！ ありがとう。

98年夏に「みたらい通信」3号を発行以来、島から出られている方々で、住所のわかった方から順次郵送をしたところ、次々と加入の申し込みがありました。

99年2月3日現在、島外者だけで「重伝建を考える会会員」は百名を突破しました。私達の予想を遥かに越える反響に、一同手を取り合って喜んでおります。ふるさとを離れた方々の方ふるさとを思う気持ちは、私達には計り知れないものがあるのでしよう。加入申し込み時には、沢山の手紙や電話で励ましの言葉を

「重伝建を考える会」が 県民文化奨励賞受賞。

2月1日、広島市「ケンシン」において、呉市の「藤井清水の会」と共に県民文化奨励賞を受賞しました。ちなみに、呉市の藤井清水さんは御手洗節などを作曲された音楽家で、御手洗ともゆかりのある方です。我々の会としては、実力的に身にあまり過ぎる光栄で、今回の受賞を糧として、さらなる飛躍のために文化を基本とした町づくりに励まねばと感動しています。私達のふるさと、私達の愛する町を、さらに生き生きと暮らしやすい町にしていきたいでしょう！

いただいております。それだけに、御手洗に住む私達は今一度、頑張らなくてはと、気持ちを新たにしております。

島から出られている方々に、外から見た御手洗についての意見を聴き、住民と島外者が一緒になって町を育てていきたいものと思っております。そのためにも、島外会員の方と住民とが年一回でも交流の場があればいいですね。良い企画、アイデアをお持ちの方は、ぜひご一報ください。



◆受賞内容（賞状の文書をそのまま掲載いたします）

「賞会は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された豊町御手洗地区で観光ボランティアガイドや地域情報誌発刊などの活動を続けてこられました。この貴重な文化財の保存は歴史的に極めて重要であり、町並み保存と町づくりに多大なる尽力をされております。その業績は高く評価されており日本の伝統文化普及向上への貢献はまことに大なるものがあります。よって今後のさらなる活動を期待し第一六回県民文化奨励賞を贈呈いたします。」

御手洗の味いまん④

別製アイスクリーム



「創業以来、一切材料も作り方も変えてないんよ」と須賀さん。注文して一つ一つ丁寧にコーンにたっぷりアイスを盛る。



コーンの底いっぱいまで詰まっていた「みふく乳業」のアイス。昔懐かしい味とはこのことだ。造るのは須賀宇津春さん。創業は昭和22年、もう半世紀以上この地でアイスを作り続け、創業からの味を守り通している。

「うちのは別製アイスクリンというん。昔、縁日とかで売りに来たよったのと同じような。もう何十年とやりよるからね、東京や大阪のお客さんでもうちの味を知って、アイスを食べるのを楽しみに来ての人もおつてんですよ。固からず、やおからずに保たにゃいけん。」須賀さんが自信を持ってお客さんに出すアイスクリンは、さわやかな味。こんなに後口のいいものはちよつとない。喉にうるおいをもたらしてくれる。

1個100円。販売は4月、10月、年中無休。

見たい! 知りたい! 伝えたい!



観光ツアーが続々と訪れる。



ツアーの訪問を受け、観光ボランティアも大活躍しています。

しまなみ海道開通を契機に、瀬戸内海のデイクルーズツアーが各社旅行会社で企画されています。その結果、豊町にも続々、観光ツアーが訪れています。3月から銀河クルーズ、読売ツアー、西日本ツアーの船が定期的に着き、その他全国町並み保存連盟の方々も来島されました。「重伝建」では、今後も引き続き「観光ボランティアガイド」を募集しています。歴史に興味のある方、どんなにお気軽にお問い合わせください。

とうとう完成! 安芸灘オレンジライン開通。

98年10月6日、町民が私達が長年待ち望んでいた中の瀬戸大橋がようやく完成しました。これで大崎下島から岡村島まで三本の橋でつながり、豊町と岡村島の関前村が車で8分となりました。すでに大崎下島と豊島は豊浜大橋でつながっており、豊島・大崎下島・岡村島の三島がつながりました。10月4日には開通式が行われ、ウォーキングフェスタで地元住民がひと足早く渡り初めを体験しました。広島県では、安芸灘オレンジラインを含めた計8本の橋で、芸予諸島と本土を結ぶ安芸灘架橋構想を進めています。



昨年10月4日オレンジライン「中の瀬戸大橋」の開通記念ウォーキングフェスタの様様。

大 喜 集

古い写真、資料を探しています!

昭和、大正時代の御手洗の街角が写った写真や資料を探しています。人物写真の背景にちらっと写っているものでも結構です。お持ちの方は、左記までご一報ください。

「なんでも伝言板」では皆様のお便りを募集しています。意見・感想その他、どしどしお寄せください。本誌で紹介させていただいた方にはもちろん記念品を差し上げます。お便りお待ちしております。

■宛先/〒734-0302

広島県豊田郡豊町御手洗

☎0846662435

「重伝建を考える会」今崎仙也

「みたらい通信」なんでも伝言板」係

おたより

●昨年の春、豊小学校より異動により梅田ひとみ主事が私の勤める小学校においでになりました。時折り聞く豊町の様子、一度訪ねてみたいと思っております。縁ありて共に勤めし貴女より

豊かに聞けり豊町島 要

■編集室より

「しまなみ海道」が開通してから、その賑わいが連日のように伝えられています。なかでも私が注目したのは尾道駅前の「レトロな街並みの再現」でした。レトロといえば吾が豊町も遅れはとりません。その象徴的な建物が「乙女座」です。昭和に入つての御手洗の栄枯盛衰を体現しているわけです。これをなんとか復元し現代に生かすことができなものでしょうか。(長濱)

●土地・建物のご用命は●

マルヤ不動産

代表者：丸谷昭彦

〒735-0007広島県安芸郡府中町石井城2-17-31

☎082・282・5441



MITARAI since1666



- 寛文6年(1666) 町屋敷割りを落しより許され、
人家が建ちはじめる
- 正徳3年(1713) 町年寄り(大長村の統轄下)が置かれる
- 宝暦9年(1759) 常盤町を中心とした大火(11月)
- 文化3年(1806) 伊能忠敬が御手洗を測量した
(3月1~3日)
- 5年(1808) 町庄屋が独自に置かれる(初代榮屋)
- 文政9年(1826) シーボルトが寄港する
- 11年(1828) 千砂子波止の築造(11~12年)
- 11~13年 住吉神社造営(大坂 鴻池善右衛門寄進)
(1828~30) ※千砂子波止の築造以後、
住吉町の埋立が進んだ
- 嘉永6年(1853) 吉田松蔭が長崎行き途中に立ち寄る
- 元治1年(1864) 三条実美ら五卿が多田勘右衛門宅
(竹原屋)に奇遇する(7月22日~24日)
- 明治12年(1879) 御手洗町が大長村より独立
- 大正2年(1913) 御手洗材木株式会社発足
- 昭和31年(1956) 1町2村合併して豊町となる
- 平成6年(1994) 国選定 重要伝統的建造物群保存地区
となる

●御手洗までの交通●



- 広島から大長まで…高速艇で約1時間30分
- 呉から大長まで…高速艇で約1時間
- 仁方から大長まで…高速艇で約40分
- 竹原から大長まで…高速艇で約40分
- 三原から大長まで…高速艇で約60分
- 今治から大長まで…高速艇で約30分
- ◎大長から御手洗まで…徒歩で約15分

いっしょに
読んで欲しい!!

「みたらい通信」を友人、知人または豊町出身者に配りたい!
等で本誌が余分に必要な方は左記奥付住所の「重伝建を考える会」
今崎までお問い合わせください。

この情報誌は
再生紙を使用
しています。